



「英語を交えた授業」の現場から— Global Life Science

茨城高専では教育のグローバル化を目指し「英語を交えた授業」を取り入れています。授業形態は、学習内容などに応じて、「英語で行うもの」「授業の要旨を英語で説明するもの」「英文図書や英語web教材を活用するもの」など様々ですが、いずれもその科目の国際水準に触れるきっかけの提供を目的の一つとしています。今回は生物・地学の基礎を英語で学ぶ本科1年生の「Global Life Science (GLS)」の様子を紹介します。

Global Warming(地球温暖化)、Tropical Biomes(熱帯の植生)、Food Web(食物網)…テーマごとに英語で模造紙一枚にまとめられたポスターが教室を囲むように貼られています。学生たちは発表者、聞き手とも2~3人のグループに分かれ、発表者1グループに対し、聞き手が1グループ向かい合います。「Presentation time!」の合図で、一斉に発表が始まりました——

後期の授業が終盤に差し掛かったある日、GLSの授業ではポスター発表会が行われていました。今学期に学んだ環境分野のテーマについて、グループでさらに学びを深め、まとめた内容を披露します。「3分間の制限時間内にグループのメンバー全員が英語で発表する」条件のほかは、形式自由。聞き手を前にポスターの文言を読み上げる学生、対話しながら説明を進める学生と様々です。英語で質問しようと考えをめぐらせる聞き手の姿も。質疑応答が終わると、聞き手は隣のポスターへと移動。発表者は1

次の聞き手を迎え、発表を繰り返します。回数を重ねるうち、「以前に質問を受けた部分にはあらかじめ補足説明を加える」というように、工夫を加える学生も見られました。

普段のGLSの授業は、英語のスライドを使用し、英語での説明の直後に同じ内容を日本語で繰り返すという講義に、英語動画の視聴、講義の理解度を確認する個人演習、グループワークやディスカッションなどの活動を織り交ぜながら進みます。単元ごとに、英語による口頭発表またはポスター発表も行います。

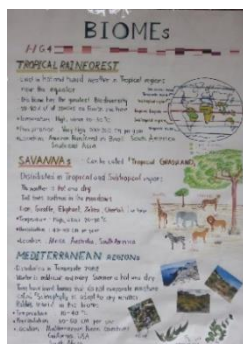
今年度の授業は主に、特命准教授のゴースー シュワパンクメル先生と特命助教のディア スリスティアニンティアス先生が分担して行いました。授業をする際の工夫について「とにかく楽しく学べるように心がけた」と話すのはディア先生。

授業で学んだキーワードを当てはめていくクロスワードパズルの宿題は「ゲーム感覚で楽しい」と学生たちに好評です。授業に積極的に参加しようとする姿勢も評価の対象とすることで、学生たちに活発な発言や自発的に辞書を引く姿勢などを促しています。言葉に詰まる学生には「知っている単語をつなげて言いたいことが伝われば大丈夫」と背中を押します。

自身がとっさに日本語が出なくなった場合には、飾らずに学生たちに尋ねることも。こうして、4月の授業開始時には緊張が漂っていた教室も、1か月ほど経つと和気あいあいとした雰囲気変わったといいます。

ディア先生も、かつてインドネシアから来日し、日本語で学んだ留学生でした。日本語を覚えるため、たくさん話し、手紙を書いたそうです。その時の思いや経験も、今、学生に接する際に活かされています。学生に配布した英単語集には、授業で学んだものを中心としつつ、工学で触れる機会が多い単語を載せています。「GLSの授業だけでなく将来の勉強や仕事にも役立ててほしい」との願いからです。

1年間の授業を通じて、英語で学ぶことに慣れ、英語で学習するための基礎力も養うことも目指しているGLSの授業。今年度で2年目となりますが、トビタテ!留学JAPANへの応募者の増加、GTECスコアの上昇と、着実に成果が表れており、今後の学生の活躍にも期待が寄せられています。



学生たちのポスターの例。
授業での作成経験をもとに、トビタテ!留学JAPANの留学計画書をまとめた学生も。(画像を一部加工しています)

Highlights from 2nd Semester, 2018-2019

受入

メキシコ・グアナファト大学付属高専の短期留学生在が来校しました

10月1日、メキシコ・グアナファト大学付属高専コースからの短期留学生8名と引率の先生の1名が来校しました。当日は台風で列車が遅れ、当初の予定から変更があったものの、化学の実験や交流会を行い、充実したひと時となりました。特にスペイン語のBINGOゲームでは、参加学生らが互いに顔を突き合わせ、和気あいあいと盛り上がっていました。



受入

インドネシア・ガジャマダ大の学生を受け入れました

10月15日～24日、インドネシア・ガジャマダ大学職業訓練校の学生2名と教員1名が滞在了。学生らは、ロボットの組み立て、制御プログラムの作成・試験を行う短期プロジェクトに取り組み、支援した本校学生らと英語でコミュニケーションを取り合って共同作業を進めていきました。また、滞在期間中に行われた本校文化祭「茨香祭」では、「Bujang Ganong」という東ジャワ島のダンスを披露。大きな歓声を受けていました。



受入

韓国・朝鮮理工大学の学生が滞在了しました

1月15日～2月12日、韓国・朝鮮理工大学の学生10名が本校に滞在了。滞在中、短期留学生たちは日本語授業を中心に、JAXAや筑波山への日帰り研修、東京見学、日本文化の体験学習などを経験して過ごしました。本校の学生寮に滞在了したことで、本校の学生たちとの交流も自然に生まれ、双方の学生にとって相互理解を深める大変貴重な機会になりました。



協定

バングラデシュ・ジョソール科学技術大学と覚書締結、学生受入をしました



10月16日、バングラデシュのジョソール科学技術大学と、学生・教員交流に関する覚書を締結しました。調印式では、同大学のモハマド オマール ファルーク応用科学技術学部長が「この協定によって、より多くの学生が日本を訪れ、経験を積む機会が生まれることを望んでいる」とあいさつ。喜多英治校長は「高専システムが御国の発展の助けになれば。今回だけでなく関係を続けていけたら」と今回の締結を喜びました。

この覚書に基づく初めての交流事業として10月15日～24日、同大学の学生5名と教員1名が滞在了し、県内の食品栄養工学に関連する分析技術や研究成果を見学・体験しました。

派遣

インドネシア・メキシコ・フランスへの学生派遣を行います

春季休業中、インドネシア・ガジャマダ大学職業訓練校へ4名、メキシコ・グアナファト大学へ3名、フランス・ルーアン応用科学大学へ2名の学生派遣を実施します。

10日～2週間の滞在中、学生たちはそれぞれの派遣先で、現地の学生との交流や、研究室等での短期プロジェクト、現地の工場や史跡の見学などをして過ごす予定です。

トビタテ

2019年度前期トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム支援対象学生に本校学生が採用されました

2019年度前期（第10期）官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～の「理系、複合・融合人材コース」の支援対象学生に本校専攻科生が採用されました。

学生は4月からの1年間、英国に滞在する予定です。

本奨学金プログラムで本校学生が長期留学するのは、2例目となります。文部科学省HPによると、今回は400人の募集枠に対し、全国から1,405人の応募がありました。